

福島を忘れないベンチ

存明寺住職が定期的に訪問している福島県の仮設住宅には、木製のベンチがあちこちに置かれています。これは仮設に住む筒井さん(大工さん)が作ったもの。人々はそのベンチに座り、対話を楽しんでいます。

その筒井さんに作っていただいたベンチが存明寺にやってきました。福島原発の事故により、ふるさとから避難生活をしている方々は約二十一人万人。

「福島を忘れないで」「そこに人がいるのだから」このベンチには、そんな願いが込められていることを痛感します。



くにゆた たみやす
国豊かに民安し
ひょうがもち
兵戈用いることなし

『仏説無量寿経』お釈迦様さま

国が本当に豊かで、その民が安らかであるためには、兵(兵隊)や戈(武器)で身を固めることは、無用なこと。お釈迦様はこのように説かれました。

まるでその逆を行くかのように、この国は今、積極的平和主義という美名のもと、武力で身を固め、戦争に参加できる国になろうとしています。

しかし、武力で平和を築くことはできないのです。力で相手をねじ伏せてはいけません。

私はひとりの仏教徒として、今回の動きに対し、「反対」の意を表明します。



この夏リニューアルします！

存明寺のHP <http://www.zonmyoji.jp>

涙の出るようなご縁

悲しい別れ

酒井義一

九州・長崎に行ってきました。仕事が終わわり、少し時間ができたので、友人のお寺にお邪魔することになりました。彼とは、若い時から、共に親鸞聖人の教えを学んできた仲です。

本堂にお参りし、お内仏のある部屋に通されました。そこにはお母様と思われる方のお写真と「法名が飾られてありました。お母様は数か月前に、急にお亡くなりになられたとのことでした。

友人の話によると、その日お母様は、なかなか起きてこないのです、どうしたのだろうと思ったそうです。部屋に行ってもいない。お母様はお風呂の中でお亡くなりになっていたそうです。

悲しい別れです。そこにいるのがあたり前だった方が、ある日突然、さようならも言わずに去ってしまったのです。のこされた方々は相当なショックを受けられたのではないかと想像します。

そのお母様が生前いつもおっしゃっていた言葉が、まるで遺言のよ

うに思い起こされると、友人は静かに語ってくれました。それは次の言葉です。

涙の出るようなご縁に
関わらないと
仏法は響かない

お母様の住んでおられた長崎の言葉で言うと、このようになるそうです。「涙のずるご縁に遇わなばね、仏法（仏さまの教え）は響かんとはい」

帰り際、お寺の掲示板にその言葉が大きく書かれていました。まるで遺言のようにずっしりと響くお母様の言葉。そして、その言葉を大切に抱きしめている友人の姿。とても深く印象に残りました。

涙の出るようなご縁

人間生きていけば、楽しいことやうれしいこともあります。悲しいことやつらいこともたくさんあります。生きるということは、苦しみや悲しみに出会うということなのかもしれません。

こんな言葉があります。「愛別離苦、これもっとも切なり」（覚如『口伝鈔』672ページ）愛するも

のと別離する時に感じる苦しみは、人間の感じる苦しみの中で、もっとも切実だ、という意味の言葉でしょう。

人は、苦しみや悲しみを感じるのと、何とかしてそれらを癒そうとしたり、消し去ろうとします、とても切実に…。

しかし、そのお母様の言葉は、深い悲しみや苦しみなど、涙の出るようなご縁に遇わないと、出会えない世界、響いてこない世界があるということを見せてくださっています。

そのような世界に出遇った時、悲しみや苦しみの意味は一変します。消し去るべきものから、「深きご縁」へと、その意味が転化するからです。

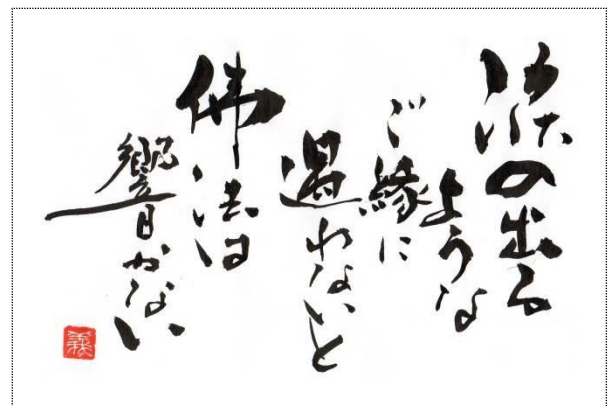
あなたへのメッセージ

今回の言葉は、涙の出るような出来事を体験する人間に、それを深きご縁として、仏法の響く世界に出会いなさいという、呼びかけの言葉のようです。

そのような呼びかけがしつかりと聞こえるよう、仏法の語られる場所にわが身を置くということを、大切にしていきたいものです。



永代経法要に向けたおみぎ奉仕のつどい(4月)



永代経法要

5月3日 存明寺にて

すべての亡き人をしのぶ「永代経法要」が行われ、お寺の本堂が満堂になるほどの多くの方々が参詣されました。

当日は十一名の僧侶や、七名の勤行衆（存明寺門徒）が出仕し、この日のために練習を重ねた仏説阿弥陀経の法要が行われました。

門徒感話は高橋昭彦さん（存明寺門徒）、ご自身の体験を通して親鸞聖人の世界に出遇われたことが語られました。当日の講師には入江杏さん（絵本作家）をお招きし、「悲

しみを生きる力にかえる」というテーマのもと、お話を聞きしました。

入江さんは二〇〇〇年の暮れに起こった世田谷一家四人殺害事件の被害者です。大型プロジェクトを使って、事件当時のこと、ご自身の今の思いをお話くださいました。

「暖味な喪失は心を痛める。自分を責める気持ちから逃れられなかった。でも、人生には悲しみを通してしか見えないものがある。悲しみは、乗り越えるものではなく、変化していくもの。悲しみを生きる力に……。とても印象に残った言葉です。親鸞聖人の「悪を転じて徳を成す」という世界に通じるものを感じました。なお参詣者には存明寺名物の精

進料理のお食事（おとき）が振舞われました。

最後には『門徒交流会』があり、多くの方々が参加されました。それが感じたことの「ひとことスピーチ」が行われました。

お寺につどう人々の表情が、まるで新緑のように輝いていました。



◆おみがき御礼

※4月25日に実施

甘田富子・荒井治子・井上憲司
内井照江・岡田 真・片田律子
加藤京子・北山千恵・小林和子
酒井陽子・佐藤尚宏・佐藤真彌
佐藤幸子・砂井テル子・杉本仁
角谷軍治・高橋昭彦・武田紀美
津田博司・羽田節子・藤井俊五
松本維邦・山口良子・山田一明
吉野恵美子・竹谷タケ子
山本幸枝

（27名が参加 敬称略）
ご協力、有難うございました。

永代経法要・写真館

（撮影：高橋昭彦さん）



永代経法要に参詣される人々（本堂）



講師の入江さん（左から2人目）とご門徒有志



この日の最後に行われた「門徒交流会」（客殿）



「門徒交流会」でのスナップ写真（客殿）

◆ 7月12日(日) 11時と1時

おぼん法要 法要と法話

◆ 7月25日(土) 午前10時

サマーセミナー

講師 梁河文昌先生(茨城)

内容 勤行・法話・座談・懇親会

会費 二〇〇〇円

◆ 8月29日(土) 午後2時

青年のつどい

内容 私の大切な曲コンサート

境内バーベキュー

是非ご参加ください。

◆ 9月12日(土) 午後2時

樹心の会 会費:500円

親鸞聖人に人生を学ぶ

お話 荒井治子さん・酒井住職

◆ 9月20日(日) 10時と1時

秋のお彼岸法要

永代供養墓完成セレモニー

内容 法要・式典・納骨式

落語 瀧川鯉昇師匠(落語家)

◆ 9月26日(土) 午後2時

グリーンケアのつどい 500円

悲しみを生きる力にかえる

◆ 10月10日(土) 午後2時

樹心の会 会費:500円

親鸞聖人に人生を学ぶ

お話 三好浩一さん・酒井住職

◆ 10月24日(土) 午前10時

おみがぎと清掃のつどい



◆ 11月2日(月) 午後2時

3日(火) 正午12時

報恩講法要

親鸞に出会う法要

講師 伊藤元先生(福岡県)

好評につき伊藤先生の再来です。

◆ 11月21日(土) 午後2時

樹心の会 会費:500円

親鸞聖人に人生を学ぶ

お話 羽田節子さん・酒井住職

◆ 11月27日(金) 29日(日)

真宗本廟奉仕団(京都)

おとなのための修学旅行

◆ 12月12日(土) 午後2時

樹心の会 会費:500円

親鸞聖人に人生を学ぶ

一年を振り返って大感話大会

◆ 12月19日(土) 午後2時

グリーンケアのつどい 500円

大切な方を亡くした人々の集い

※会場は、すべて存明寺です。

11月の奉仕団のみ京都です。

● 青年のつどい

日時 8月29日(土)

午後2時

場所 真宗大谷派 存明寺

会費 三、〇〇〇円

企画1 参加型コンサート

「私の大切な曲コンサート」

渡辺 一真さん(ギター・歌)

渡辺亜也子さん(ピアノ)

青年のつどいスタッフ

企画2 バーベキュー交流会

炭火焼の境内バーベキュー

夏の最後の土曜日、毎年恒例の青年のつどい、開催します。



↓ 永代供養墓(納骨堂)

無量寿 (完成予想図)

9月20日(日)、完成セレモニー。

【あしがき】

▼夏には夏ならではの企画があります。7月のサマーセミナー、8月の青年のつどい、9月の完成セレモニー落語会。それぞれ心こめて準備中です。

▼出会いは、やがて、生きる力となる…。お寺のひろばに、ぜひお出かけください。心よりお待ちしております。(住職)



東京都世田谷区北鳥山4-15-1

真宗大谷派 存明寺

住職 酒井 義一

〒157-0061 TEL 03-3300-5057

FAX 03-3300-5880

E-mail : sakai@zomyoji.jp